

研究主題 キャリア教育に関する研究

一児童・生徒の勤労観・職業観をはぐくむための校内研修資料集の開発・活用一

1 研究の背景とねらい

現状と課題

(1) 学校から社会への移行をめぐる現状

①進学も就職もしていない者の割合

	平成2年 3月卒業生	平成15年 3月卒業生
高等学校 (注1)	5.2%	10.3%
大学 (注2)	6.5%	27.1%

経済情勢や産業・経済及び雇用の構造的変化等の中、高等学校または大学を卒業後、進学も就職もしていない者の割合は平成2年3月卒業生より平成15年3月卒業生の方が、それぞれ5.1ポイント、20.6ポイント増加している。(キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 平成16年1月 文部科学省より)

(注1:外国の高等学校・大学等への入学者を含む)(注2:研究生として学校に残っている者、専修学校・各種学校・外国の学校・職業能力開発施設等への入学者を含む)

②新規学卒就職者の在職3年以内の離職率

	平成2年 3月卒業生	平成15年 3月卒業生
高等学校	45.1%	49.3%
大学	26.5%	35.7%

高等学校または大学を卒業後、在職3年以内の離職率は平成2年3月卒業生より平成15年3月卒業生の方が、それぞれ4.2ポイント、9.2ポイント増加している。(新規学卒者の就職離職状況調査 平成17年 厚生労働省より)

(2) 若者自身の勤労観・職業観に関する課題

若者の働くことへの意欲・関心が低く、コミュニケーション能力・対人関係能力・基本的なマナーなどの職業人としての基本的な資質・能力の低下が指摘され、社会人・職業人として自立するための勤労観・職業観を育成する教育が求められている。(キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 平成16年1月 文部科学省より)

施策等

<国>

- 初等中等教育と高等教育との接続の改善について(答申) 平成11年12月 中央教育審議会
- 若者自立・挑戦プラン 平成15年6月 文部科学省 厚生労働省 経済産業省 内閣府
- キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 平成16年1月 文部科学省
- 若者の自立・挑戦のためのアクションプラン 平成16年12月、平成18年1月(改訂) 文部科学省 厚生労働省 経済産業省 内閣府

<都>

- 都立高校改革推進計画・新たな実施計画 平成14年10月
- 東京都教育ビジョン提言21 「学校全体で取り組む計画的なキャリア教育」 平成16年4月
- 東京都特別支援教育推進計画 平成16年11月
- 東京都教育委員会の基本方針に基づく平成18年度の主要施策
 - ・中学生の職場体験
 - ・キャリア教育の推進事業 (都立高等学校へのキャリアアドバイザー派遣事業、インターンシップ応援事業等)

ねらい

児童・生徒が社会人・職業人として自立していくためには、小学校、中学校、高等学校、盲・ろう・養護学校それぞれの校種の特徴及び発達段階に応じて望ましい勤労観・職業観を育成することが求められている。そこで、キャリア教育に関する校内研修資料集を開発し、活用を促すことにより、教員にキャリア教育に関する理解を深め、児童・生徒の発達段階に応じた組織的・計画的なキャリア教育の充実に資する。

キャリア教育とは

(1) 定義

○望ましい勤労観・職業観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性や適性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てる教育である。

○児童・生徒一人一人の進路選択に関する資質や能力の発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリア(生涯にわたって遂行する立場や役割)を形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育である。

(「望ましい勤労観・職業観の育成」 東京都教育庁指導部義務教育心身障害教育指導課 平成16年3月より)

(2) キャリア教育を通して育てたい4能力

人間関係形成能力

他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。

将来設計能力

夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。

情報活用能力

学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。

意思決定能力

自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。

(3) キャリア教育の基本方向

- ①一人一人のキャリア発達への支援
- ②「働くこと」への関心・意欲の高揚と学習意欲の向上

- ③職業人としての資質・能力を高める指導の充実
- ④自立意識の涵養と豊かな人間性の育成

具体的な進め方

(4) キャリア教育推進のための方策

- ①「能力・態度」の育成を軸とした学習プログラムの開発
- ②教育課程への位置付けとその工夫
- ③体験活動等の活用
- ④社会や経済の仕組みについての現実的理解の促進等
- ⑤多様で幅広い他者との人間関係の構築

(5) キャリア教育を推進するための条件整備

- ①教員の資質向上と専門的能力を有する教員の養成
- ②保護者との連携の推進
- ③学校外の教育資源活用にかかるシステムづくり
- ④関係機関等の連携と社会全体の理解の促進

(キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 平成16年1月 文部科学省より)

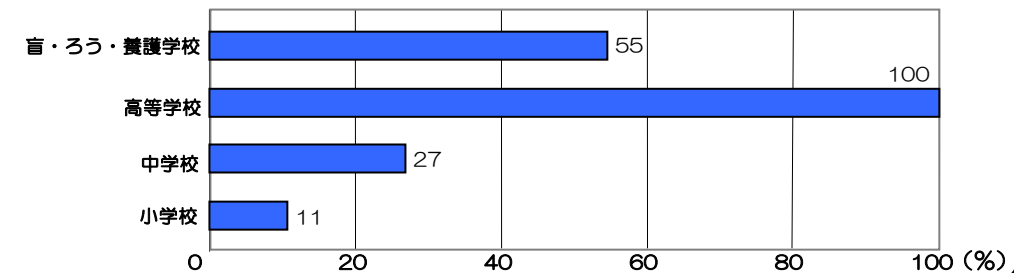
キャリア教育を進めるための留意点

- 1 児童・生徒が自分のよい点や課題を認識し、目標に対して努力するよう、自己理解を深め、自己肯定感をもたせる。
- 2 小学校から高等学校までの12年間のすべての教育活動において、児童・生徒に勤労観・職業観をはぐくむための教育を系統的・計画的に行う。
- 3 家庭・地域・学校がそれぞれの役割を理解し、その役割を果たすとともに、それぞれが連携して、勤労観・職業観の育成に取り組む。

2 学校におけるキャリア教育の実施状況に関する調査の結果

- ・調査目的 都内公立学校におけるキャリア教育の実施状況に関する実態を把握すること
- ・調査対象 都内公立小学校102校、中学校56校、高等学校36校、盲・ろう・養護学校(高等部)22校 計216校(回収率100%)
- ・調査方法 質問紙によるアンケート調査
- ・調査期間 平成18年7月28日から8月18日まで

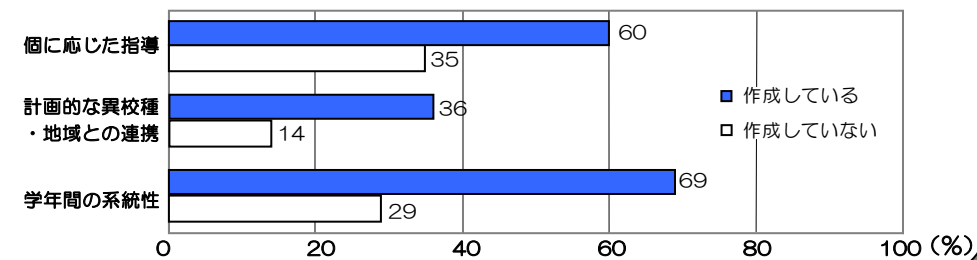
(1) キャリア教育の全体計画を作成している学校の割合



キャリア教育の全体計画を作成している学校の校種別の割合

- ・小学校 11%
- ・中学校 27%
- ・都立高等学校 100%
- (今年度、実施と検証を行っている。)
- ・盲・ろう・養護学校 55%

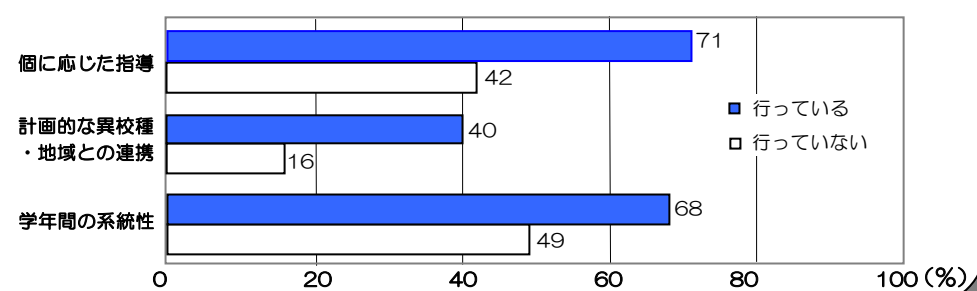
(2) キャリア教育の全体計画の作成状況とキャリア教育にかかわる指導の実施状況



キャリア教育の全体計画を作成している学校と作成していない学校のキャリア教育にかかわる指導の実施状況の比較

キャリア教育の全体計画を作成している学校の方が、個に応じた指導、計画的な異校種・地域との連携、学年間の系統性のある指導の実施状況が高い。

(3) キャリア教育に関する校内研修の実施状況とキャリア教育にかかわる指導の実施状況

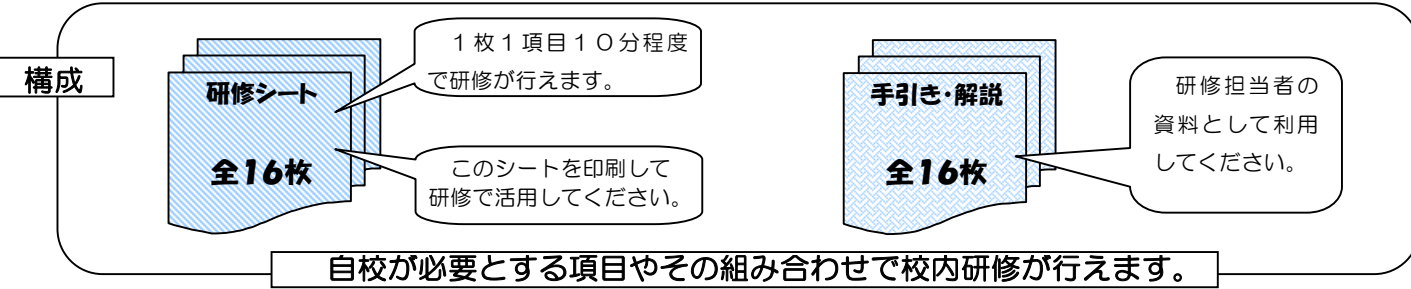


キャリア教育に関する校内研修を行っている学校と行っていない学校のキャリア教育にかかわる指導の実施状況の比較

キャリア教育に関する校内研修を実施している学校の方が、個に応じた指導、計画的な異校種・地域との連携、学年間の系統性のある指導の実施状況が高い。

3 校内研修資料集 キャリア教育推進ショートプログラム

(1) キャリア教育推進ショートプログラムの構成



(2) キャリア教育推進ショートプログラムの内容

A キャリア教育の概要

キャリア教育を実践するために、キャリア教育とはどのような教育なのか、なぜキャリア教育が必要なのかを理解する。

- A-1 キャリア教育とは何かの理解
- A-2 キャリア教育を通して育てたい4能力の理解
- A-3 4能力の育成目標の検討
- A-4 家庭・地域・学校の役割の理解と連携の在り方の検討

C 異校種・家庭・地域との連携

キャリア教育を進めるためには、異校種・家庭・地域などの理解と協力が必要である。そのための具体的な方法を理解する。

- C-1 異校種との連携の在り方の検討
- C-2 家庭・保護者との連携活動の検討
- C-3 地域との連携の仕方の検討

B キャリア教育の実践

キャリア教育を全教育活動を通して組織的・計画的に行うために、系統的な指導計画の立て方や具体的な指導の在り方理解する。

- B-1 キャリア教育の指導計画作成の視点と手順の理解
- B-2 キャリア教育の全体計画作成の仕方の理解
- B-3 キャリア教育の学年別年間指導計画作成の仕方の理解
- B-4 キャリア教育と関連を図った授業のポイントの検討
～教科(国語科)の例～
- B-5 キャリア教育と関連を図った授業のポイントの検討
～道徳の例～
- B-6 キャリア教育と関連を図った授業のポイントの検討
～総合的な学習の時間の例～
- B-7 キャリア教育と関連を図った授業のポイントの検討
～特別活動(ホームルーム活動)の例～

D 活動の記録と評価

児童・生徒が自己理解を深めるためには、自分自身を適切に評価する力を育成することが必要である。そのための方法を理解する。

- D-1 自己を見つめる力を育てるための指導の在り方の理解
～活動記録を用いて～
- D-2 活動記録の活用の仕方の検討

キャリア教育と現在の教育活動との関連を考え、
A・B・C・Dの4テーマ
で構成しています。

(3) キャリア教育推進ショートプログラムを使った校内研修の進め方と校内研修の例

全校種で共通して活用できる事例を次のとおり示した。実際に校内研修等を行う場合は、下記のようにA・B・C・Dの中から研修の目的に合わせて必要な研修シートを選択し、それらを組み合わせる。

キャリア教育全体について研修する場合

- 目的 キャリア教育の全体を理解する。
- 研修担当 教務主任または研究主任
- 時間 1回10分程度
- 回数 16回
- 時期 職員会議後、年間を通して
- 使用するシート 全16枚

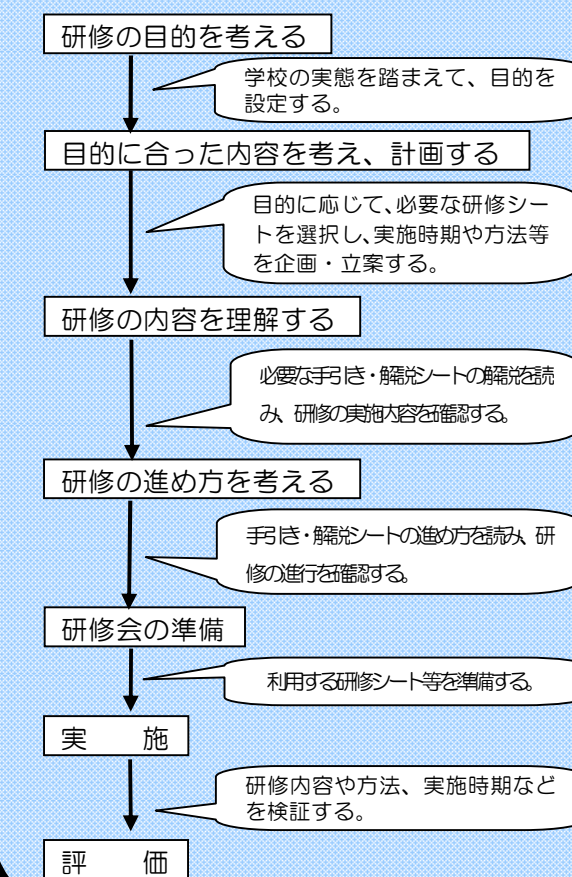
研修シート
全16枚

キャリア教育の全体計画の作成の仕方を研修する場合

- 目的 キャリア教育の全体計画の方法・手順等理解する。
- 研修担当 教務主任
- 時間 40分程度
- 回数 1回
- 時期 4月
- 使用するシート 4枚

A-1 A-3 B-1 B-2

研修担当者が企画・運営する際の留意事項



(4) キャリア教育推進ショートプログラムの実践例

区立A小学校

- 目的
 - キャリア教育に関する理解を深める。
 - キャリア教育の指導計画作成の手順を理解する。
 - キャリア教育と関連を図った授業の進め方を理解する。
- 場面 校内研修会
- 参加人数 21名
- 研修担当 進路指導主任
- 時間 職員会議後25分
- 使用シート A-1、A-4、B-1、B-4(掲示資料としてA-2、B-2使用)
- 進行
 - キャリア教育の意義とその背景についての理解
 - キャリア教育を通して育てる4能力についての理解
 - 家庭・地域・学校が連携したキャリア教育の在り方についての理解
 - キャリア教育の全体計画の作成の仕方についての理解
 - キャリア教育と関連を図った授業の進め方を国語の場合を基に理解
- 受講者の感想
 - 1枚のシートにテーマがまとまっているので、ポイントを絞って理解できる。
 - キャリア教育の実践方法が分かった。

キャリア教育の考え方を研修する場合

- 目的 望ましい勤労観・職業観の育成を学校全体で図るためにその考え方を共通理解する。
- 研修担当 教務主任または研究主任
- 時間 1回10分程度
- 回数 4回
- 時期 職員会議後
- 使用するシート 4枚

A-1 A-2 A-3 A-4

職場体験の進め方を研修する場合

- 目的 職場体験の進め方を理解する。
- 研修担当 進路指導主任
- 時間 30分程度
- 回数 1回
- 時期 4月
- 使用するシート 3枚

A-4 B-6 C-3

保護者にキャリア教育への協力を求める場合

- 目的 保護者会において、保護者に伝える内容を検討する。
- 研修担当 学年主任
- 時間 20分程度
- 回数 1回
- 時期 保護者会の前
- 使用するシート 2枚

A-4 C-2

児童・生徒の自己理解を深める場合

- 目的 自己を見つめ、自己理解を深めるための指導と支援の在り方を理解する。
- 研修担当 学年主任
- 時間 1回20分程度
- 回数 2回
- 時期 4月と1月
- 使用するシート 4月2枚
1月3枚

A-3 D-1 4月
A-3 D-1 D-2 1月

都立B養護学校

- 目的
 - キャリア教育に関する理解を深める。
 - キャリア教育の指導計画作成の手順を理解する。
- 場面 進路指導部分掌内における研修会
- 参加人数 12名
- 研修担当 進路指導主任
- 時間 分掌部会後30分
- 使用シート A-2、A-3、B-2、B-3(研修担当者はB-1も使用)
- 進行
 - キャリア発達と発達課題についての理解
 - 発達段階に応じた4能力の育成目標の例の理解
 - キャリア教育の全体計画の例及び学年別年間指導計画の例を基にした指導計画の作成の仕方
- 受講者の感想
 - キャリア教育の理解が深まった。
 - 研修成果を今後の教育活動に生かし、キャリア教育を実践できると思う。

B-4 キャリア教育と関連を図った授業のポイントの検討
～教科(国語科)の例～

小学校

研修シート

キャリア教育と関連を図った授業のポイント

- 教科の目標に沿った授業展開の中で、育成できる4能力を明確にし、4能力の育成を図ることができる活動・支援・評価を取り入れる。
- 自己を振り返り、活動記録に記入する活動を取り入れる。

小学校第2学年 国語科学習指導計画

- 単元名 夏休みの思い出を発表しよう(話すこと・聞くこと)
- 単元の目標
 - 夏休みに経験したことについて、順序を考えながら話すことができる。
 - 大事なことを落とさないように友達の発表を聞くことができる。
- 単元指導計画(全3時間)

育成する能力
・人間関係形成能力
・情報活用能力

時	主な学習活動	●支援 ☆評価
第一時	○単元の目標を確認する。 ○学習の見通しをもつ。 夏休みの思い出を発表しよう ○発表する話題を考える。 ○自分の話したい話題を決める。 (例)夏休みにあさがおの花が咲いてうれしかったこと ○話す内容をカードに書く。 (例)水やりのこと・台風のこと・つぼみのこと・花が咲いたこと	●単元の目標をとらえやすくするために、掲示物などを活用しながら児童に分かる言葉で目標を示す。 (例)「夏休みのことについて、順序を考えて発表したり、友達の発表を聞いたりしていきましょう。」 ●楽しかったこと、見つけたこと、がんばったことなど、具体的な例を紹介する。 ●内容が相手によく分かるように、話題に關係する物や写真などをもってきてよいことを伝える。 ☆話したい事柄を選ぶことができる。
第二時	○よい話し方、聞き方について考える。 《話すとき、聞くときに気を付けること》 話すとき ○相手を見ながらゆっくり最後まで話す ○発音に注意してはっきりと話す ○絵や物を使ったり動作を付けたりして話す ○順序を表す言葉を使う など 聞くとき ○相手を見ながら話を最後まで聞く ○反応しながら聞く(うなずきなど) ○順序を表す言葉や文末表現に気を付けて聞く など	●話すとき、聞くときに気を付けることを模造紙などで示す。 ●教員が上記の例を参考に見本を示す。 ●よかったところを相手に伝え、分からないことを質問するように助言する。 ☆順序を考えて話している。 ☆分からないことは質問している。
第三時	○話し方、聞き方を確認する。 ○話す内容を確認する。 ○グループで発表会を行う。 ○クラス全体でよかったことを発表し合う。 ○学習を振り返り、自己評価を行う。	●前時で学習したことを踏まえ、順序を表す言葉を使うこと、反応しながら聞くことなどを指導する。 ☆順序を考えて相手に分かるように話している。 ☆大事なことを落とさないように聞き、分からないことを質問している。 ●学習内容を振り返り、具体的に活動記録に記入できるように書き方の例を示す。

どの学習もキャリア教育と関連を図って行うことができます。

本単元において
キャリア教育と
関連を図るための
ポイント

人間関係形成能力

人間関係はお互いの考えを伝え合うことから始まり、国語で育成する話す力、聞く力は人間関係形成能力を高める基礎となる。

情報活用能力

相手の話の大事なことを聞き取り、分からないことは質問する経験を繰り返すことが、情報活用能力の育成につながる。

人間関係形成能力

聞き手を意識して話したり、話し手を見ながら話を設定し、継続して取り組むことが大切である。

手引き・解説

1 研修の進め方

時間(分)	研修内容	研修担当者の活動	研修実施上の留意点
0	①研修のねらい等の理解	①研修のねらい、内容を説明し、研修シートB-4を受講者に配布する。	①研修担当者は、事前に解説Q&Aを読み、言葉の意味等を把握しておくとともに、グループ協議に重点をおくようにする。
1	②キャリア教育と関連を図った教科の授業を行う上でのポイントの理解	②キャリア教育と関連を図った教科の授業を行う上でのポイントについて研修シートを基に、次の内容を説明する。	②【共通理解を図る内容】 ・教科等の目標達成を図る上で、学習活動における指導内容・方法・評価等が、キャリア教育で育成する4能力に結び付くという考え方を工夫して行うこと
2		・「夏休みの思い出を発表する」は、人間関係形成能力として、国語科の「話すこと、聞くこと」に関連させて、育成することができること	③【共通理解を図る内容】 ・普段行っている授業方法の工夫に着目し、調べ学習では、情報活用能力、発表形式の授業は、人間関係形成能力、問題解決学習は意思決定能力等の育成に結び付くこと
3		・「よかったところを相手に伝える、分からないことを質問する」という助言は、情報活用能力の育成に結び付き、指導法の工夫・改善点となること	・キャリア教育との関連を見いだすことにより、確かな学力の向上に結び付く指導内容・方法の工夫や授業改善となること
4	③普段の授業における指導内容・方法とキャリア教育との関連や可能性についてのグループ協議	ア 目的は、普段の授業を振り返り、キャリア教育との関連を図った指導内容や方法を見いだすことである。 イ 方法は、普段の授業を想定して、キャリア教育で育てる4能力の育成と関連のある指導内容・方法等について、2～4人の少人数で話し合う。	【留意点】 ・グループ協議の内容を深めるため、研修担当者は、解説Q&Aを参考に、キャリア教育と関連する授業方法等を情報提供する。
5			④発表は、研修の時間に合わせて行う。また、時間があれば質疑応答を行う。 【想定質問及び回答例】 Q1 国語科の授業のほかにも、どのような教科で人間関係形成能力を育成することができるか。 A1 どの教科においても、話し合いをしたり、自分の考えを相手に分かりやすく説明したりすることで育成できる。
6			
7			
8			
9	④検討内容の発表	④検討した指導内容や方法等について、数人に発表してもらう。	
10	⑤終了		

2 解説Q&A

- Q1 キャリア教育の目標とキャリア教育で育てる4能力との関連を見いだしてどのように授業を行うことができるのか。
A キャリア教育と学習内容との関連は教科によって異なる。教科や単元によって、重点的に育てやすい能力がある。例えば、国語科における人間関係形成能力、社会科における情報活用能力などのように、考えやすいところから始めるとよい。
- Q2 キャリア教育の核となる主な教育活動はどのようなものか。
A ○学級や学年の友達、異学年集団、地域の人など、多様な人々とのかかわりを重視した活動
○ものづくり、職場体験、インターンシップ、ボランティア活動などの体験活動
○異校種、家庭、地域、関係機関等との連携による活動
○学習のまとめとして、児童・生徒が学習成果を振り返り、次へのめあてをもつ活動
○進路指導など、将来の人生を考える活動 など
- Q3 研修シートの例のほかにも、どのような授業ができるか。(小学校の例)
A 例1「大きくなった自分を考える」(生活科)〈人間関係形成能力の育成〉
例2「わたしたちの地域の商店について調べる」(社会科)〈情報活用能力の育成〉
例3「表やグラフを活用する」(算数科)〈情報活用能力の育成〉
例4「家族との生活について考える」(家庭科)〈将来設計能力の育成〉
例5「実験の計画をたてる」(理科)〈意思決定能力の育成〉 など

中学校

B-6 キャリア教育と関連を図った授業のポイントの検討
～総合的な学習の時間の例～

キャリア教育と関連を図った授業のポイント

- 総合的な学習の時間の目標に沿った授業展開の中で、育成できる4能力を明確にし、4能力の育成を図ることができる活動・支援・評価を取り入れる。
- 自己を振り返り、活動記録に記入する活動を取り入れる。

中学校第2学年 総合的な学習の時間学習指導計画

- 単元名 わく(Work)わく(Work)Week Tokyo
- 単元の目標
 - 働くことの意義を理解し、働くために必要な姿勢に気付くとともに、体験する職業における自分の課題を見付ける。
 - 社会的なマナーやルールを身に付ける。
 - 異世代間も含めたコミュニケーション能力を身に付ける。
 - 自分が発見した課題を集めた情報や自らの考えを工夫してまとめ、他の人に伝える。
- 単元指導計画(職場体験活動30時間を含む事前・事後指導全40時間)

育成する能力
・人間関係形成能力
・情報活用能力
・将来設計能力
・意思決定能力

時	主な学習活動	●支援 ☆評価
事前指導	○単元の目標を確認する。 ○職業体験の意義を話し合う。 ○体験先の希望調査を行う。 ○体験先の話や聞き、求められている姿勢について考える。 ○体験する職場の仕事内容について調べ、体験活動における自分の課題をもつ。 ○マナー講習で、マナーを身に付ける。 ○自己PRを書き、事前訪問をする。	●単元の目標をとらえやすくするために、掲示物などを活用しながら生徒に分かる言葉で目標を示す。 (例)「職場体験で多くの人と交わり、働くとはどんなことを学び、将来に向けてどんなことを今、しなくては行けないのか考えてみましょう。」 ☆主体的に取り組む、体験する職業について調べたことをもとに、自己PRを書いているか。

本単元において
キャリア教育と
関連を図るための
ポイント

将来設計能力

体験を通して仕事や職業における苦労や喜び、職業や働くことの意義や役割についての理解や自覚を深めることは職業観や労働観の育成につながる。

高等学校

B-7 キャリア教育と関連を図った授業のポイントの検討
～特別活動(ホームルーム活動)の例～

キャリア教育と関連を図った授業のポイント

- 特別活動の目標に沿った授業展開の中で、育成できる4能力を明確にし、4能力の育成を図ることができる活動・支援・評価を取り入れる。
- 自己を振り返り、活動記録に記入する活動を取り入れる。

高等学校第1学年 ホームルーム活動進路指導計画

- 活動名 進路を考える
- 活動の目標
 - 自己の個性や能力、適性を理解する。
 - 自己を生かした卒業後の進路を見据え、高校生活の目標を考える。
- 進路指導計画(全4時間)

育成する能力
・人間関係形成能力
・情報活用能力
・将来設計能力
・意思決定能力

時	主な学習活動	●支援 ☆評価
4月実施 1時間	○学習活動の目標を確認する。 ○自分の性格や適性などを考え、自己PR書にまとめ、自己紹介を行う。	●学習活動の目標をとらえやすくするために、掲示物などを活用しながら生徒に分かる言葉で目標を示す。 (例)「自分の長所や短所、得意なこと、興味のあることを考えてみましょう。自己理解を深めることは、人間関係をつくる土台となり、将来の生き方や進路・職業を適切に選択することにつながります。」

本単元において
キャリア教育と
関連を図るための
ポイント

人間関係形成能力
将来設計能力

長所や短所、得意なこと、興味のあることを自分自身が認識することは、自分を他者に理解してもらい、他者を理解し人間関係を築くことにつながる。また、将来の生き方や進路・職業の適切な選択につながる。